

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール5	臼井 陽一郎	2	ゼミ・卒研(前期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

#### ゼミテーマ・タイトル

#### ヨーロッパの政治と文化を学ぶ

#### 内容

(1) ヨーロッパを舞台に活動した人物をひとり取り上げ、その人生を通じた仕事を追いかながら、その時代の社会のありようや変化をみつめていく。その人物は、政治・文学・絵画・彫刻・写真・音楽・サッカー・ラグビーなど、分野は問わない。参加学生は、共通の人物ひとりえらび、みなで調べ考えていくとともに、各自がそれぞれにひとりとりあげ、自分自身でその人生に追っていく。その調べのプロセスを通じて、卒業論文で必要なリサーチの技法を学得してもらう。その技法については、教員側から適宜、アドバイスを与えていく。本年度、共通に取り上げる人物としては、サッチャー元英首相を予定している。

(2) 文章力を鍛えるために、毎回、400字課題を提出してもらう。論題は、正義について、善について、理想について、希望について、絶望について、不正について、暴力について、悪について、戦争について、自由について、など。

(3) ヨーロッパの政治と文化に関する映像資料を観て、各自それぞれにメッセージを読み取り、それを報告しあってもらう。

(4) ヨーロッパの歴史を理解するための資料を読んで、中学生向けに授業するようにわかりやすく板書ノートにまとめ、実際に参加ゼミ生の前で授業をしてもらう。

(5) 今年6回目となる10大学合同ゼミ合宿に参加する(今年は箱根・小田原開催)。その運営に積極的に携わってくれる学生を歓迎する。日程は9月8-9日を予定。参加予定大学は本学以外に、北海道大学・北海学園大学・立教大学・法政大学・聖学院大学・尚美学園大学・東海大学・愛知県立大・名古屋商科大学・天理大学・龍谷大学・立命館大学など。

なおこのゼミでは毎回4時間相当の予習/復習が必要になる。

#### 使用予定テキスト

授業中に適宜指示する。

#### ゼミの進め方

学生の報告を中心に、適宜、教員側のショートレクチャーを組み入れていく。

#### 成績評価基準

毎回のゼミでの活動(90%)・毎回の400字課題(10%)

#### ゼミ選択上のアドバイス

LINEグループをつくり、飲み会や小旅行、ゲームであそぶ、といったこともやっていきますが、集団行動を画一的に強いていくということは絶対にしません。無理のない範囲で気軽に参加してください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

#### その他

どうしても自分でお金を払って買って自分のものにしたいと思えるような本に出会えるといいですね。

なお授業中の学生のワークおよび400字文章課題に関して、適宜、講評を加える。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	矢口 裕子	2	ゼミ・卒研(前期)				

#### ゼミテーマ・タイトル

#### テクスト講読によるジェンダー／文学／文化批評

#### 内容

文学研究の世界では、1980年代後半以降、「ジェンダー・階級・民族性」という新たな視点を導入することにより、それまで埋もれていたり周縁的位置に追いやられていた作家・作品が発掘され、さらに、すでに正典（キャノン）として評価が確立しているかに見えた作品を読み直す作業が盛んに行われるようになった。また、こうした新たな批評の道具を映画・音楽等ポビュラーカルチャーの解説に応用する試みも活発である。

このゼミでは、こうした批評的視点から文学、映画、音楽、文化一般や時代を読み解くこと、最終的にはその成果としての卒業論文をまとめることう目標とする。

日本語のテキストと英語のテキストを両方取り上げる予定だが、場合によっては英語のみとする、翻訳のゼミにする等の選択肢もありえる。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらう。

#### 使用予定テキスト

田嶋陽子『ヒロインはなぜ殺されるのか』講談社

舌津智之『どうにも止まらない歌謡曲』晶文社

大和田俊之『アメリカ音楽史』講談社

Harry M. Benshoff and Sean Griffin, *Gender and American Film*, Eihosha.

Anais Nin, *Linotte: The Diary of Anais Nin*, Harcourt.

#### ゼミの進め方

レポーター制によりテキストの精読を行う。レポーターの仕事は、テキストの内容をまとめ、調べるべきことを（舐めるように）調べ、そのうえで自分の意見・疑問・論点を提示し、ゼミ内の議論を活性化させることである。もちろんレポーター以外の学生もテキストを精読し、自分の意見を用意してゼミに臨むことが求められる。

#### 成績評価基準

レポーターとしてのゼミへの貢献度、普段の発言等ゼミへ取り組む姿勢、随時課す少レポート、半期ごとに課す期末レポートの成果を総合的に判断する。

#### ゼミ選択上のアドバイス

読むこと、書くこと、考えることが好きな学生、様々な分野にアンテナを張り巡らせた、知的好奇心旺盛な学生を歓迎する。卒論を完成させる4年ゼミは、大学生活の集大成となる重要なものである。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	越智 敏夫	2	ゼミ・卒研(前期)				
				ゼミテーマ・タイトル			

## 政治思想と現代社会

あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」

### 内容

卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしあはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。

ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きしていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。

もし「今社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。

ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッセル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。

しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。

こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問い合わせ結びつかのか心配する人もいるかもしれません。しかしこれらの問い合わせについて考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問い合わせを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

### 使用予定テキスト

たとえば、下記。具体的には学生と相談します。

ヴェーバー『職業としての学問』	岩波文庫
ヴェーバー『職業としての政治』	岩波文庫
ベンヤミン『複製技術時代の芸術』	晶文社
ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』	講談社文芸文庫
アレント『全体主義の起源』	みすず書房
アレント『暴力について』	みすず書房
丸山眞男『現代政治の思想と行動』	未来社
丸山眞男『日本の思想』	岩波新書
フーコー『知への意志 性の歴史』	新潮社
フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』	新潮社

### ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

### 成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

### ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

### その他

合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	2	ゼミ・卒研(前期)				
国際研究ゼミナール5	鈴木 佑也						
ゼミテーマ・タイトル							
ロシア・ソ連地域研究、アート、建築、都市計画、都市文化、芸術政策、全体主義芸術							
内容							
<p>国家や政府、または「上からの指示」に従って生じた文化現象は、自由意志または自然発生によって生じた文化現象と比べた場合、価値のあるものなのかな。無価値または価値が低いとするのであれば、その文化現象に対する評価基準は何であるか。</p> <p>一方で高い価値が与えられるのであれば、単に国家や政府の方針、政治や経済をめぐる状況だけで評価を与えてよいものなのかな。</p> <p>こうしたことをこのゼミでは考察し、議論していく。</p> <p>ゼミでは自らが関心のある文化現象を研究テーマとして掲げ、そのテーマや関連事象を分析し、学術論文を完成させることが目的となる。レポートや論文作成指導はもちろんだが、テーマとする文化現象をどのような観点から論じるか、また自らのテーマを論理的かつ説得性を持って他人に向けてどのように説明するかという指導も積極的に行う。分析や調査の際に、ロシア語および英語の学術論文や文献、資料などを読むことがこのゼミでは求められる。講師の研究領域はロシア・ソ連芸術史および建築史であり、特に1930-50年代のいわゆる「全体主義」政治体制での芸術および建築が専門である。そのため、このゼミで扱う対象となるのは以下の通りである：</p> <p>地域：ロシア・ソ連地域またはヨーロッパの旧社会主义圏 分野：アート、建築、都市文化、都市計画、芸術政策、表象文化 時代：20世紀から21世紀</p> <p>ただし、上記の対象と近いものに関心があれば個別に相談してもらいたい。</p> <p>流れとしては3年次前期には論文の書き方や資料の集め方などを学習し、このゼミの共通テーマとなる文献（「使用予定テキスト」参照）を講読する。3年次後期ではそれぞれの研究テーマを決定し、そのテーマに関する参考文献を各自で講読し、問題点や関心あるテーマに対する自らの問題意識やそれを取り巻く状況を報告または発表し、議論する。その中で自らのテーマを絞り込む。また可能であれば、論文を書くための大まかな方針を決める。4年次前期では取り組むテーマを決定し、参考関連書籍及び先行研究（最低でも関連書籍は5冊）を読みつつ、取り組むテーマの基礎知識を深め、資料や文献収集を行い、論文の構成をまとめながら論文執筆に備える。4年次後期は論文執筆が中心となる。原稿添削や様式のチェックなども行う関係から12月までには初稿を完成させておくことが望ましい。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
<p>参加者に応じて変更する場合があるが、現時点では以下の通り。初回のオリエンテーションで参加者各自の興味あるテーマを聞きながらその年に購読するテキストを決定したい。</p> <p>I. ゴロムシュトク（貝澤哉訳）『全体主義芸術』水声社、2007年（共通テーマ用テキスト） 戸田山和久『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2012（論文作成用テキスト）</p>							
ゼミの進め方							
<p>講師によるレクチャー（論文の書き方、ゼミ共通テーマに関する講義）とゼミ参加者によるゼミで与えられたテーマの報告と発表、輪読から構成される。報告などの際は参加者が司会、報告、報告に対するコメントをその都度分担し、参加者の自主性が求められる。</p>							
成績評価基準							
<p>ゼミは通常の授業と異なり、一種のチームを組んで自らの仕事をやり遂げることが重要となる。そのため、ゼミへの貢献と自らの研究テーマに対する積極的な取り組み、そして課題となるレポート及び論文への完成度が評価対象となり、それらを総合的に評価する。欠席は原則として認めない。</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>日常生活での些細なものに対して「なぜ」と思ったり「面白い」と感じるのであれば、それは既に研究への扉が開かれているのである。こうした興味や関心を失わず、それらの関連事象への知的アンテナを張り巡らせることができるのであれば、このゼミを選択していただきたい。</p>							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施	
×							○
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール5	小山田 紀子	2	ゼミ・卒研(前期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
グローバル化と地域社会—中東・北アフリカ・ヨーロッパ・日本を中心に—							
内容							
<p>●教員の研究テーマ：</p> <p>マグレブ近現代史（マグレブとは、北西アフリカの西方アラブ圏諸国を指すアルジェリア・チュニジア・モロッコ三国）、アルジェリアの植民地史研究、フランス帝国主義研究、マグレブの脱植民地化の過程に関する比較研究、フランスのイスラーム系移民問題、日本における異文化理解（外国人、とくにムスリムとの交流など）</p>							
<p>●内容（目的やねらい）</p> <p>学生が3年次後半に決めた個別研究テーマに従って文献資料収集や現地調査、インタビューなどを進める。その際、先輩たちの卒業論文集を参考にしたり話を聞いたりする。テーマの決定と資料収集に当たっては教員と相談しながら進めていく。研究の進み具合によって順番に研究報告をし、他の学生からの質問や議論の中から示唆を得て研究をさらに豊かなものになるよう進めていく。最終的には各学生の個別研究テーマは、後期に卒論としてまとめることになる。</p> <p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
<p>各学生が個別研究のテーマで、教員と相談しながら参考文献資料を決めていく。</p>							
ゼミの進め方							
<p>4年次前期は、卒業研究に関して、教員の個別指導を中心に進める。参考にする文献資料の検索と収集を行い、入手した研究書・論文の読解を進め、ノートを作成して卒論の構想を練り上げていく。論文の構成に従って執筆を進めていく。</p> <p>ゼミでは各自の研究の中間発表を順次行う。</p>							
成績評価基準							
<p>卒業研究に取り組む姿勢、卒論作成の進捗状況などにより総合的に評価する。</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施		
×					×		
その他							

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	2	ゼミ・卒研(前期)				
国際研究ゼミナール5	山田 裕史						
ゼミテーマ・タイトル							

## 国際協力研究

### 内容

国際協力について学ぶゼミです。

国際協力は、何のために、誰が、どのように行うものなのでしょうか。また、グローバル化が進んだ世界に生きる市民として、私たち一人ひとりは、日常生活のなかでどのように国際協力を実践できるのでしょうか。このゼミでは、国際協力に関する文献やドキュメンタリー、ワークショップを通じて、これらの問い合わせについて考え、議論します。

今年度は、とくに「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」について基礎から学びます。SDGs とは、貧困や気候変動、人種やジェンダーに起因する差別などの地球規模の問題・課題を、国際社会が協力して 2030 年までに解決しようとするものです。SDGs は、よりよい未来を目指すための世界共通の 17 の目標で構成されています。このゼミでは、単に SDGs についての知識を身に付けるだけでなく、実際に一人ひとりが自分にできること、できそうなことから SDGs に取り組むことを目指します。

履修者は、文献講読やワークショップを通じて、国際協力に関する理論と各種活動に関する専門的知見を習得するとともに、研究テーマの決め方、文献・資料の探し方と整理の仕方、まとめ方、口頭発表や論文の書き方など、卒業論文執筆に向けて学術的な技法を学びます。

なお、希望者がいれば、カンボジアまたはベトナムをフィールドに国際協力の現場を訪問する、スタディ・ツアーの実施も検討します。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

### 使用予定テキスト

以下の 3 冊の講読を予定していますが、履修者と相談のうえ、履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定します。また、各自の研究課題に応じたテキストを紹介します。

高柳彰夫・大橋正明編『SDGs を学ぶ』法律文化社、2018 年

ディビッド・ヒューム『貧しい人を助ける理由』日本評論社、2017 年

西あい・湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店、2017 年

また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010 年

### ゼミの進め方

履修者の研究分野と関心にもとづきテキストを選定するほか、各自の研究課題に応じたテキストを紹介します。

また、以下のテキストを用いて、卒業論文執筆に必要な学術的な技法を学びます。

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術—プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010 年

### 成績評価基準

(1) 出席、(2) グループ・ワークやグループ・ディスカッションへの貢献度、(3) ゼミ発表、(4) 期末レポート、をもとに総合的に評価します。グループ発表に対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

### ゼミ選択上のアドバイス

国際協力に関する専門的なテキストも講読するため、3 年次までに後期開講科目の「国際協力論」の単位を取得済みであるか取得見込みであることが望ましい。

学びと活動の双方を重視する積極的な学生、「学術論文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。

本学には、先進国と途上国の食の不均衡の問題に取り組む TFT NUIS や、フェアトレード推進団体 NUIS-FT などの国際協力団体があり、各学年の山田ゼミの学生たちが国際協力を実践しています。また、学外でも、毎年 5 月の万代アースフェスタに出展したり、新潟の国際協力 NGO が一堂に会する、秋の国際協力イベントの企画や運営も行ったりしています。ぜひ一緒に活動しましょう。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表 等)の実施
○	国際協力 NGO でプロジェクトに従事した経験を授業内容に反映する。	○
その他		

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	佐々木 寛	2	ゼミ・卒研(前期)				

#### ゼミテーマ・タイトル

#### 平和のための地球政治学——新しいく文明>を求めて

#### 内容

当ゼミでは、危険や問題がグローバルに展開する現代で、人間がすこしでもよりよく生きぬいていくための方策をいっしょに考えてみようと思います。そのためにはまず、現代の危機や問題の本当の姿をしっかり知的につかまえなければなりません。身近な問題がもつ世界的な意味をおののが理解すること。これが第一のねらいです。第二に、このような問題を考えるにあたって、なぜ既存の知的な枠組み=専門分化した社会科学だけではダメなのか、いかにこれまでの「勉強」が、人間がいきいき生きていくための「学問」をダメにしてきたのか、について考えてみようと思います。その意味で、新しい学問運動としての「平和学」の可能性や新しい大学のあり方などについても議論できればと思います。そして最後に、広い世間でさまざまに展開する新しい試みや活動を見る中で、現代でよりよく生きてゆくための新たな方策、新しい生き方やく文明>のあり方をともに探求できればと思います。さまざまな市民活動やNGOで活躍する人たちをゼミに招いたり、ゼミ学生自身が自分たちの力でNGOを設立・運営したり、いろいろなことに挑戦しようと思います。

最終的に各自ゼミ論文(3年次)、および卒業論文(4年次)の作成を目指すため、多種多様なテキストを読みこんでゆくだけでなく、さらに必要に応じてワークショップ、調査旅行やフィールド・ワークも行います。また、映画をはじめとする映像資料もできるだけ多く活用する予定です。なお、佐々木ゼミでは毎年、海外に平和研修旅行に訪れるのが慣例になっています。各地の歴史資料館や戦争/平和記念館(ドイツでは「アウシュヴィツ」、韓国では「ナヌムの家」)などを訪れ、身体全体で世界の問題を感じ、思考することを目指します。

当ゼミでは広い意味での暴力や平和に関する問題を扱いたいと思いますが、細かいことは、参加学生の自由意思にゆだねます。扱うテキストに関しては以下に一例として挙げたものを参考にしてください。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

- ◎H.アレント『暴力について』みすず書房
  - ◎A.ギデンズ『近代とはいかなる時代か?』而立書房
  - ◎U.ベック『危険社会』法政大学出版局
  - ◎A.マルツ『現代に生きる遊牧民』岩波書店
  - ◎E.サイード『知識人とはなにか』平凡社
  - ◎P.ブルデュー『メディア批判』藤原書店
  - ◎日本平和学会編『「3・11」後の平和学』早稲田大学出版部 など。
- 他に必要に応じて英語文献も読みます。

#### ゼミの進め方

ゼミの進め方や運営方法に関しては、基本的に参加者と相談して決めます。ただ、テキストを読む場合は、報告者をたてて報告をしてもらい、それを討論者が整理・コメントするという方法をとろうと思います。その後は自由討論。司会も学生です。だから教員は必要最小限のことしか話しません。参加学生がゼミをつくりあげます。

#### 成績評価基準

ゼミへの参加態度や貢献度 + レポートの出来。

#### ゼミ選択上のアドバイス

能力や知識よりも、ゼミというひとつの社会を自分の力で楽しくつくっていこうとする気概をもった学生、また、大学生活を締めくくる上で悔いのない卒業論文を書き上げたいと思っている諸君を歓迎します。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

#### その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1-3年次生】経営情報学部経営学科 【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	澤口 晋一	2	ゼミ・卒研(前期)				
ゼミテーマ・タイトル							
自分の脚を使って、観て、考えるゼミ。							
内容							
以下の分野からテーマを決め、関連文献をできるだけ多く読むことで、自己の課題を決定し、調査地（あるいは調査項目）選定まで行う。							
・地理学分野							
自然地理学：地形学（高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、沖積平野等）							
第四紀学（古環境変動）							
気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等）							
地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ）							
人文地理学：土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、観光地理学、地誌学							
・地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性等							
・地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全等							
・資源・エネルギー分野：資源枯渇、自然エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題）等							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
なし							
ゼミの進め方							
前期は個々のテーマに関係する論文（専門誌掲載論文）を5本以上読む。							
夏休みは卒論の調査を行う。							
成績評価基準							
ゼミへの取り組み姿勢							
ゼミ選択上のアドバイス							
実務経験のある教員による授業科目有無				実務経験と授業科目との関連性		アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施	
×						○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	小林 伊織	2	ゼミ・卒研(前期)				

#### ゼミテーマ・タイトル

Peter Seminars on World Englishes for juniors/seniors  
(In preparation for writing an undergraduate thesis on World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF), and sociolinguistics)

#### 内容

There are more non-native speakers of English in the world today than there are native speakers. Asia is the region with the largest number of English speakers in the world. This means that the learner in Japan is more likely to use English with other non-native speakers, particularly those from Asia, than with native speakers.

There is no single standard variety of English in the world. The spread of English around the world meant that many different varieties of English developed in various locations. It did not mean that British English or American English was transplanted in different locations in its original form.

English is an Asian language. Japan is a part of Asia; English is also a Japanese language. When a Chinese, a Japanese, a Korean and a Russian talk to each other in English, each one speaks his/her own variety of English. Here, what is considered to be "correct" or "incorrect" in American English is irrelevant as long as they can communicate successfully. The learner from Niigata should be able to use English as his/her own tool to express the cultures and thoughts of Niigata to people in Asia and all over the world.

In the Peter Seminar, we first look at the frameworks and key concepts of World Englishes. Then we explore selected varieties of world Englishes, including Philippine English, Singapore English, Indian English and West African English. Finally, we consider the implications of the emergence of new Englishes for English language teaching and learning.

The seminar requires 4 hours of self-study per session. This time should be spent doing pre-seminar reading as well as presentation and essay preparations.

#### 使用予定テキスト

Honna, N., Takeshita Y. & D' Angelo, J. (2012). Understanding English across Cultures. Tokyo: Kinseido.

Honna, N. & Takeshita, Y. (2009). Understanding Asia. Tokyo: Cengage.

本名信行 (2006) 英語はアジアを結ぶ 玉川大学出版部

Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students. Oxon: Routledge.

Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge: Cambridge University Press.

#### ゼミの進め方

1. Pre-class reading
2. Short introductory lecture
3. Small group discussion
4. Student presentation

#### 成績評価基準

20% Attendance

20% Participation

20% Presentation

40% Essay

Before, during and after the semester, you will receive feedback about your performance in the seminar through oral and written methods.

#### ゼミ選択上のアドバイス

You should join the Peter Seminars if you plan to write an undergraduate thesis in English about topics related to World Englishes, English as a Lingua Franca (ELF) and sociolinguistics.

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

#### その他

Other details of the seminars will be announced in the first meeting.

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	アレクサンドル プラーソル	2	ゼミ・卒研(前期)				

#### ゼミテーマ・タイトル

ロシア社会・文化の歴史と現代、日露文化比較研究。

#### 内容

生徒にゼミテーマに沿っての分野を選んでもらって、信頼できる参考文献の選択、研究方法、アプローチ、卒業論文の書き方等の指導を行う。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

テキストを利用しない。

ゼミ生各々が興味のあるテーマを調べてもらう。

教員が適切な研究や参考文献を勧める。

#### ゼミの進め方

ゼミ生に各々興味のあるテーマを選んでもらって授業を進める。それぞれ違うテーマの発表論争に参加することによって生徒の知識を深めることを目指す。人数によって、発表は毎週か隔週かになる。発表しないときは他人の発表を聞いて論争に参加しなければならない（質問、疑問、コメントも可）。調べてきた資料は卒論研究の基礎をなすので、徹底的に進まなければならない。

#### 成績評価基準

出席率（66%以上が必要）、発表や発言の質、他人の発表論争の参加によって成績を評価する。

レポートや発表のフィードバックとして特に優秀な答案を公表し、全般的な講評を行う。

#### ゼミ選択上のアドバイス

なるべく早く興味のあるテーマを選択することが重要である。発表準備中の不明な点について質問を書き留めて授業中に担当教員に説明してもらうようにしよう。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
--------------------	----------------	-------------------------------------

○ 民間会社での通訳・翻訳・論文査読の経験を生かす

その他

ゼミ研究の課題は下記の通りである。

グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体的な問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。

異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていくこと。

日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	2	ゼミ・卒研(前期)				
国際研究ゼミナール5	藤本 直生						
ゼミテーマ・タイトル 英語による社会言語学および談話分析 Sociolinguistics & Discourse Analysis in English							
内容							
<p>「ことばを話す」ことは、私たちが生活する上でとても大切な能力です。私たちは母語である日本語を無意識に話しているように思いますが、場所や状況に合わせて適切に使っています。また、ことばは生きていて、絶えず変化しています。社会言語学とは、このようなことばの変化に焦点を当てる学問です。本ゼミでは、3年次の国際研究ゼミナール3、4で学んだ次の10の観点からなる社会言語学の基本的なコンセプトをもとに、談話分析の研究手法も加えて学びます。</p>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gender 男女によることばの差</li> <li>2. Age 年齢差によることばの違い</li> <li>3. Ethnicity 人種・民族による言語差</li> <li>4. Social class and regional differences 社会階級と地域による言語の違い</li> <li>5. Language and culture 言語と文化</li> <li>6. Forms of address 呼びかけ表現</li> <li>7. Politeness ことばによる丁寧表現</li> <li>8. Image and association イメージと連想</li> <li>9. Speech acts and discourse スピーチアクトとディスコース</li> <li>10. Nonverbal language 非言語伝達</li> </ol>							
<p>さらに、データとして各自映画やテレビ番組の一場面、あるいは友達や家族との会話を録音してテープ起こしをし、談話分析の研究手法に従って分析を行います。卒論発表会のプレゼンテーションに向けて、メンバーの発表を聞き合う機会も持つ予定です。</p>							
<p>なお、英語で卒業論文を書くための基礎を養うために、Extensive Reading（略してER、多読）も並行して行います。ERでは図書館にある Graded Readers の中から自分の興味ある内容の本を選んで、昼休みや放課後等の時間を使って各自のペースで読み進めます。</p>							
<p>毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p>							
<p>15回の授業のうち1回を課題に代替します。詳細は授業中にお知らせします。</p>							
使用予定テキスト							
<p>『An Invitation to Sociolinguistics 社会言語学への招待－社会・文化・コミュニケーション』 田中春美&amp;田中幸子編著、ミネルヴァ書房</p>							
<p>『タテ社会の人間関係－単一社会の理論』中根千枝著、講談社現代新書 『「甘え」の構造』土居健郎著、弘文堂 『表と裏』土居健郎著、弘文堂</p>							
<p>『めざせ！100万語 読書記録手帳』SSS 英語学習法研究会著、コスモピア株式会社 その他、プリント教材を使用するため、それを綴じるためのファイルを各自で購入すること</p>							
ゼミの進め方							
<p>各自で収集したデータをもとに、ペアやグループでディスカッションしながら進めます。</p>							
成績評価基準							
<p>授業態度・授業への参加 30%、ER 20%、卒業論文の準備と進み具合 50%</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>ことばやさまざまな言語に関心があり、英語で社会言語学と談話分析に関する卒業論文を書き上げたいと考えている学生の皆さんには、藤本ゼミを受講して下さい。</p>							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施	
	○ 公立中学校での勤務経験を有する教員が、実践的な英語教育を行う。					○	
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	佐藤 若菜	2	ゼミ・卒研(前期)				

#### ゼミテーマ・タイトル

中国地域研究／日中関係／台湾・香港／民族衣装・衣服・物質文化／親子・家族・社会関係／結婚

#### 内容

本ゼミでは、自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。まず、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを促す。加えて、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究分析の違いについて考察する力を身につけることを目標とする。

3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した文献を読み、発表する。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を発表し、執筆した草稿を定期的に提出する。3年次・4年次のゼミにおいては、全ての学生が発表者に対する質問をし、ディスカッションを行う。

#### ＜これまで指導した卒業論文のテーマ＞

##### ○中国・台湾・香港に関するテーマ

- ・現代中国における若者の化粧行動：「90後」世代に着目して
- ・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から
- ・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して
- ・日本と中国のテレビ・コマーシャルがうつしだす文化的差異： 視聴者との共在状況に着目して
- ・台湾映画のなかの日本：本省人監督が描く日本統治時代

##### ○母娘関係、家族、結婚に関するテーマ

- ・中国の女子大学生と親との関係：進路の選択に着目して
  - ・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して
  - ・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から
  - ・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して
  - ・日本におけるペットの死をめぐる議論：ペットロスに着目して
  - ・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して
  - ・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策
  - ・同性婚をめぐる議論がうつしだす日本社会：1991-2019年の朝日新聞の記事938件を参考して
- その他：民族衣装・人類学理論、民族誌、文化など
- ・日本のフォークロア・ファンションにおける循環性
  - ・レヴィニストロースの構造主義：神話研究に着目して
  - ・暴走族に付与されたストーリー：漫画・新聞・民族誌に着目して
  - ・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から
  - ・日本における映画離れの現状と決策
  - ・韓国における英語教育：学歴競争社会と英語熱の関連性に着目して
  - ・アメリカにおける肥満問題と対策：日本との比較から
  - ・地産地消と食育：新潟県に着目して

毎回の予習・復習として、計4時間相当の課題を出す。ゼミでは、各学生がその成果を発表し、皆で議論する。

#### 使用予定テキスト

戸田山和久. 2012.『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版社.

その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。

#### ゼミの進め方

各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとにディスカッションを行う。

#### 成績評価基準

レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。

#### ゼミ選択上のアドバイス

学生の主体性を尊重し、中国地域研究や日中関係にかかる幅広い分野にわたる関心に対応する。中国大陸（中国国家図書館、民族文化宮等）、台湾（国立台湾図書館、中央研究院等）、香港（香港中文大学等）での資料収集と現地調査（北京、上海、広州、貴州、雲南、台湾、香港など）の経験を踏まえ、多様なアプローチを紹介しながら卒業論文の指導を行う。また、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化や、親子や家族を含む社会関係に関するテーマに対しても指導可能である。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

特になし

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	堀川 祐里	2	ゼミ・卒研(前期)				

#### ゼミテーマ・タイトル

#### 労働と社会保障の視点から日本経済を考える

#### 内容

このゼミでは国際社会を見渡すための視点を確立させるべく、日本経済に対する持論を確立させてほしいと思います。その際に、日本経済を理解するための切り口となるのは「労働問題」と「社会保障」です。自動原則の貫かれる資本主義社会において、私たちはどうやって生きていくのか、人生において労働ができないとき、社会にはいかなる仕組みが必要なのか、考えていきましょう。皆さんのが生きている社会の諸課題に対して「なぜ?」を問う姿勢を身につけてください。

なお、最終的な到達目標である卒業論文の執筆に向けて、3年生から4年生までの2年間のゼミは以下のような計画で進めていきます。

3年前期～11月：グループワークでインタビュー調査と報告会を行い、労働に関するイメージを掴む。

3年後期：個別論文を用いて輪読を行う。アカデミックな文章である学術論文の書き方の作法を身につける。

卒業論文の作成に向けて、履修生各自の論文テーマを決定し、先行研究の涉獵、整理を行う。

適宜、作業状況の進捗報告を行う。

4年前期：卒業論文の研究方法を決定し、調査、分析を行う。適宜、作業状況の進捗報告を行う。

4年後期：夏休み明けを目処に卒業論文草稿を完成させる。その後、推敲作業を重ね、論文を完成させる。

論文完成後には、研究内容についてのプレゼンテーション練習を行う。

なお、本科目は、2年生までに日本経済や社会福祉に関わる諸科目を履修し、労働と社会保障に関する基礎的な知識を身につけていることが望ましい科目です。

また、毎回の予習・復習に、併せて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

履修生の興味、関心から判断して選定します。内容としては「労働問題」、「社会保障」に関する論文から選ぶ予定であり、内容についてはもちろんですが、学術論文の書き方を勉強できるようなものを使用します。

#### ゼミの進め方

前期の初めから後期11月くらいまでの時間をかけて、新潟県内で働く人々へのインタビュー調査と、その報告会を行ってもらいます。それぞれのミッションは、教員主導ではなく、ゼミ生の力で運営してもらいます。正規の3年ゼミの時間以外にも、グループで自主的に作業を進めていく必要がありますので、その心つもりをしてください。

3年後期以降は各自の卒業論文執筆を見据えて個人の研究を進め、適宜、作業の進捗状況について報告を行ってもらいます。また、その時々の日本経済の状況について調べ、考え、ディスカッションを行う時間も併せて設けていきたいと思います。

#### 成績評価基準

履修者本人が担当する輪読の発表や、個人の研究の進捗報告についての、取り組みの姿勢や内容(50%)

グループワークでの作業、授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度(50%)

※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。

#### ゼミ選択上のアドバイス

大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。特に、3年ゼミでは、大学を飛び出して実際に働く人々にインタビュー調査を行うことで、労働に関する課題について具体的なイメージを掴んでもほしいと思います。そのため、以下のような学生の履修を歓迎します。

①学外へインタビュー調査に出ることに挑戦する気持ちをもつ学生。

②グループワークに積極的に協力し、自ら自分の役割を見つけて率先して課題に取り組める学生。

③プロジェクトを最後まで責任をもって遂行できる学生。

多くの皆さんにとって大学は教育の「最後の砦」となります。そのため、社会に出ていく1歩手前まで来た皆さんには、3年生から4年生では特に学ぶことに全力で取り組み、人生の地図を描くとともに、生きていくための持久力をつけてほしいと思います。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

#### その他

大学3年生から4年生は、就職活動も本格化する時期であり、人生の大きな岐路に立つ時期でもあります。そのため、この2年間を共に過ごす履修生にはお互いを仲間として支え合う気持ちを持ってほしいと思います。大学生活に新たな課題が増えますが、履修生には、ゼミ生はお互いに切磋琢磨するライバルであり、同時に長い人生の上での大切な仲間であるという意識を持って、思いやりを発揮してほしいと考えます。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	2	ゼミ・卒研(前期)				
国際研究ゼミナール5	吉澤 文寿						
ゼミテーマ・タイトル							

### 卒業研究（2）—オリジナリティを目指した調査研究

#### 内容

私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。

\*\*\*

このゼミでは以下の通りの計画で進める。

3年次前期：テキスト学習…近年発表された書籍または論文を輪読したり、それをもとに討論したりする。

詳細は国際研究ゼミナール3の「使用予定テキスト」を参照されたい。

3年次後期：個人研究（1）—先行研究の整理…学生それぞれが選んだテーマに即した文献等を収集し、その研究状況を整理する。

4年次前期：個人研究（2）—調査の実施及びその結果の整理…自分で集めた一次資料やアンケートなどで収集した情報を整理する。

4年次後期：個人研究（3）—卒業論文の執筆…文献や資料などを補完しつつ、論文を執筆し、完成させる。

#### 使用予定テキスト

4年次前期のゼミでは、特定のテキストはないが、以下の文献を引き続き貸与する。

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009年

#### ゼミの進め方

学生各人が前学期で明らかにした研究課題に即して、自ら集めた一次資料や調査結果を分析し、一定の結果なり、展望なりを見いだすことを目指す。私からも参考になる資料や文献を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。

また、長期休暇中に、卒業論文作成に向けた合宿または会合を持ちたい。そのときに他大学の学生と交流する機会があれば、なおよいだらう。

#### 成績評価基準

出席とレポートで評価する。

欠席をしないこと。とくに無断欠席は厳禁である。

レポートは2000字程度で、4年次前期に各自が調査した結果をまとめる。

#### ゼミ選択上のアドバイス

もし、このゼミから初めて参加する者は、事前に卒業研究のテーマを設定し、先行研究をある程度整理しておくことが望ましい。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

予習復習に4時間。

なお、ゼミ1回分を課題レポートに代替する。詳細は授業中に指示する。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
国際研究ゼミナール5	申 銀珠	2	ゼミ・卒研(前期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

#### ゼミテーマ・タイトル

##### 韓国・朝鮮と日本関連の文化研究

##### 内容

国際研究ゼミナール3, 4で学習した内容を踏まえながら日本と韓国・朝鮮関連の様々なテーマを勉強し、具体的な自分の研究テーマについて発表してもらいます。時事問題なども積極的に取り上げながら常に自分と社会の関連性を意識し、理解を深めていきたいと思います。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

##### 使用予定テキスト

ゼミ生の発表内容に応じて参考文献等を紹介し関連分野の理解を深めていくようにしたい

##### ゼミの進め方

発表者の発表内容を事前に知らせ、関連分野について事前に学習して臨むようにしたい。発表者、司会、コメントーターを決めておいて毎回の発表と討論が活発に行われるようにならう。

##### 成績評価基準

主に学期末のレポートで評価する。出席率、普段の授業態度、発表内容、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーション能力をも積極的に評価に加えたい。

##### ゼミ選択上のアドバイス

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○
その他		

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310007	X-21-B-3-310007			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール5	瀬戸 裕之	2	ゼミ・卒研(前期)				
				ゼミテーマ・タイトル			

## 東南アジア地域研究入門

### 内容

#### 【ゼミの目的】

本ゼミでは、「東南アジア地域研究」を学ぶことを主な目的としています。具体的には、植民地支配、第二次世界大戦、冷戦の展開、民主化、グローバル化の進展といった国際社会の変化を、東南アジアという地域での具体的な戦争や事件の展開を通じて考察することで、国際社会と東南アジア社会についてより多角的な視点から理解することを目指します。

東南アジアは、かつて欧米諸国の植民地支配を経験し、第二次世界大戦終結後の冷戦期には、インドシナ戦争、ベトナム戦争、カンボジア紛争など激しい戦争が行われ、多くの犠牲者が亡った地域です。このような戦争は、現代の東南アジアにも影響を与えていると考えられます。また、この地域では、1960年代から、東南アジア諸国連合(ASEAN)をはじめとする地域間協力が進み、現在でも国境を越えた経済連続性の強化が行われているものの、各国間では経済発展に格差があり、民主化や人権保障の面でも、多くの課題を抱えています。

さらに、東南アジアは、日本との関りも長く、現在も日本企業が多く進出しています。その一方で、第二次世界大戦期には、東南アジアに対して戦争被害を与えた歴史があります。日本がこの地域とどのようにかかわっていくべきかを考えるために、現代の東南アジアが経験した戦争や地域形成について学び、日本と東南アジアの関係について、お互いに対等な立場で考えることが重要です。

以上のような問題意識を共有しながら、学生たちと教員と一緒に学んでいきます。

#### 【ゼミの内容】

東南アジアの政治、経済、社会、国際関係に関する事件や諸問題について、学生が興味・関心があるテーマを自らが選択し、本や資料に基づいて調べた内容をゼミで報告します。ゼミでは、発表者、発表者以外の学生たち、教員で質疑応答を行い、ディスカッションを行います。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間程度の課題を提示し、その結果を提出してもらいます。

### 使用予定テキスト

学生の研究テーマや関心に応じて、教員が紹介します。

### ゼミの進め方

東南アジアの政治、経済、社会、国際関係について、学生が興味・関心を持つテーマを自ら選択し、そのテーマについて本・資料によって調べたことをゼミで報告してもらいます。

### 成績評価基準

ゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1)ゼミへの出席と授業態度(25%)、(2)担当した発表内容と取り組みへの姿勢(50%)、(3)ゼミでのディスカッションへの参加(25%)、に基づいて、成績を出します。

【注意事項】ゼミ15回のうち1回分は、レポートで代替します。受講者は、必ず提出してください。

### ゼミ選択上のアドバイス

東南アジアの政治、経済、社会、国際関係に関して学びます。少し内容が難しいかもしれません、教員も説明しますので、頑張って勉強してください。

東南アジアの近現代史、現代社会の国際関係に関する基礎知識が必要になりますので、ゼミに入る前に、「現代東南アジア論」の授業を履修していることをお勧めします。受講していない場合も、3年次前期に履修してください。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

### その他

学生の皆さんと一緒に勉強できる機会を楽しみにしています。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習